

かながわの

2014

学びづくりプラン

学校組織としての取組みの充実と 地域・保護者への積極的な発信を！

平成 20 年度に開始した「かながわ学びづくり推進地域事業」も平成 25 年度で 6 年が経過しました。各推進地域における取組みから、数多くの成果が見られました。

平成 25 年度のかながわ学力向上シンポジウムでは、「組織としての取組み」と「地域・保護者への発信」について、議論しました。

シンポジウムテーマ

「小・中学校における学力向上に向けた取組の成果と課題」
～ 校内の研究推進体制の構築と地域・保護者への発信の在り方～



地域・保護者への発信

- 保護者の立場から
- ・ P T A 会員を対象にアンケートを実施した。「学校に求めるものは何か」。一番多い回答は、「学校の様子をありのままに伝え、学校の教育方針を伝える」だった。
- 学校の立場から
- ・ 様々な学習機会に地域の方や保護者の参加を呼びかけている。
 - ・ 地域とともに様々な教育活動を進める中で、「一人ひとりの子どもを成長させる結果として学校が創られてくる」ということを実感した。
- 学識経験者から
- ・ 「学校のことをわかってほしい」という一方向的な発信ではなく、ありのままを伝えたいうえで、地域・保護者との対話のきっかけとしての発信を考えていきたい。

学校組織としての取組み

- 学校の立場から
- ・ 校内研究体制を考えると、一部の教員に負担が偏っていないか。
- 保護者の立場から
- ・ 若い先生の増加はチャンスである。
- 学識経験者から
- ・ 一人ひとりの個性・考えがつながることで学校組織ができる。授業について話し合うことで教員同士の人間関係が作られ、人間関係があるから互いの授業力が向上する。



来場者から

- ・ 学力向上のために必要なことは、子どもを学習の主体者とするところであると再認識した。
- ・ 学校と地域が協働して学びをつくる意義がわかった。

R リサーチ ~学校の課題をつかもう!~

自校の課題を的確に把握することは、目標を明確に持ち、その成果を点検するうえで大切です。
前年度の教育課程の実施状況を見直すとともに、全国学力・学習状況調査の調査結果や、県公立小・中学校学習状況調査等の結果を分析し、学校全体で教育活動を改善するために活用しましょう。

全国学力・学習状況調査の活用

全教職員で、各教科の「B問題(活用)」を解いてみましょう。
 今、子どもたちに求められている学力が見えてきます。

正答率がおおむね80%を上回るものが「**成果**として認められる内容」です。
 正答率がおおむね70%を下回るものが「**課題**として考えられる内容」です。

全国的な状況の中では、次の活動を積極的に行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られています。

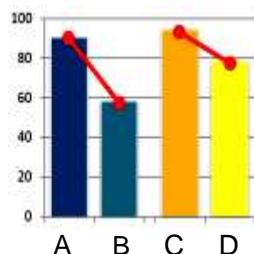
- ・ 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動
- ・ 授業の最後に学習したことを振り返る活動
- ・ 学級やグループで話し合う活動
- ・ 総合的な学習の時間における探究活動
 (自分で課題を立てて、調べたことを発表するなどの学習活動)



上記の活動について、『児童・生徒質問紙調査』において自校の児童・生徒がどのように受け止めているかを把握し、教育活動の改善につなげます。

平成25年度の全国学力・学習状況調査の調査結果から

学校質問紙「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を生徒に示す活動を計画的に取り入れましたか」質問番号(29)
 生徒質問紙「普通の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか」質問番号(58)



- A: 「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答えた中学校 [90.6%]
 B: 「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒 [58.4%]
 中学校では、意識の差が32.2ポイントもあります!
 C: 「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答えた小学校 [94.4%]
 D: 「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答えた児童 [78.6%]

このことから、「学校が上記の活動を行っていると考えていても、そのように受け取っていない児童生徒が一定割合存在し、特に中学校でその割合が大きい。」ことがわかります。

県公立小・中学校学習状況調査の活用

小学校3年生、5年生、中学校2年生対象の調査です。

前学年までの学習内容の基礎的・基本的な知識・技能やそれらを活用する力の定着状況を把握します。

児童・生徒の答案の記述内容から、どのようなつまづきを抱えているのかを見取ります。

「出題のねらい」や「結果の概要」から、授業のポイントを確認します。

課題解決教材は、誰でもダウンロードできるように県教育委員会のHPに公開されております。

[<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417579/p472981.html>]

今後、どこに重点を置くことが必要なのか、効果的なのか等の課題を把握するためにも、前年度の教育活動を振り返り、調査結果を分析・活用することはとても有効です。

進めましょう！

P プラン ~ 目標を共有し、学校全体で取り組む計画を立てよう！ ~

R で把握した課題を踏まえ、育てたい子どものイメージを具体的に持ちながら、学校全体で目標を共有します。個人の力量に委ねるのではなく、組織(チーム)として取り組むことが大切です。

全教職員で目標の共有

授業を通してどのような児童・生徒を育てたいのか、学校の実態を踏まえながら“目標”をすべての教職員で共有しましょう。

大きな目標を見据えながら、今年度中に達成可能な目標、重点的に取り組む内容を確認し、具体的な授業のイメージを全員で共有することからはじめましょう。

国や県、各市町村の資料の活用

学習指導要領や学校教育目標を基に、様々な資料を活用しながら年間指導計画・年間評価計画を作成します。

平成 25 年 3 月に県が発行した「確かな学力を育てるためにリーフレット解説編」を使いながら、「授業づくりの道すじ」を学校全体で共通理解します。

児童・生徒に「身に付けさせたい力」を明確にし、どんな単元(題材)・教材で指導するか、指導時期と授業時数を見通しながら計画を立てます。同時に、年間を通してバランスよく能力の育成が図られているか、評価の観点や項目の偏りがないかも検討します。

国立教育政策研究所が提示している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」では、効果的・効率的な評価の進め方や「おおむね満足できる」状況等の判断の根拠や目安を調べることができます。[<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>]

各市町村からも、市町村の実態に応じた教育プランや参考資料が発行されています。

こうした資料を活用すると同時に、児童・生徒の実態を踏まえながら、目標を達成するための計画を学校全体で共通理解を図りながら立案することが大切です。



授業研究を中心に

次のことを意識しながら授業研究会を実施している学校は、1年間の見通しを持ちながら研究計画を作成しています。

全教職員による公開授業 授業づくりを教科や学年を越えて協働で行います。

[組織的な授業づくり] 指導案検討段階から、指導主事等外部の助言を得ています。

授業研究会を積極的に外部へ公開 授業を見てもらうことは授業力の向上に直結します。

小学校と中学校で「学び方」の共有 近接する小・中学校で、年度当初に「学び方」のカリキュラムの共通理解を図ります。

「学び方」のカリキュラム = 「話し方」「聞き方」「ノート」「調べ方」「まとめ方」等、主体的な学習活動を効果的に進めるために、発達の段階を考慮した学習のスキル。「話し方スタンダード」等を作成し、実践している学校もあります。

児童・生徒、保護者への説明

いつ、何を、どのように学習し、評価するか、また、評価したことをいつ、どのように伝えるかを丁寧に説明します。

児童・生徒へ

・年度初めのオリエンテーション等では、教科ごとに教科の目標、付けたい力、年間の学習の流れなど、見通しを持って学習を進めることができるように説明します。

保護者へ

・学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別学習状況の評価や目標に準拠した評価の考え方、学校としての評価・評定の考え方を説明します。

・授業参観では、学校の「指導の重点」が伝わるような工夫を心がけましょう。



D ドウ ～さあ、実践しよう！～

学校全体で共有した目標の実現に向け、綿密な計画のもと、一人ひとりが実践していきます。

単元構想を基にした授業設計

単元（題材）全体の「児童・生徒の学びのプロセス」をデザインすることで、一貫した指導の流れをつくることができます。

- ・単元のはじめに、付けたい力が身に付くプロセスの見通しを持たせます。
- ・単元の終わりに、何を学んだのか、付けたい力が身に付いたのかを振り返らせます。

県立総合教育センターでは、『単元構想シート』を作成しています。ご利用ください。

[<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/kadaiSnavi/index.html#kaizen>]

充実した授業研究会

「苦労したけど、やってよかった」「参加してよかった」と、授業者も参加者も授業づくりの楽しさを実感できる研究会の運営が大切です。

研究会運営の例

ステップ（個人で考える時間）

- * 授業参観後、次の視点からキーワードとともに整理する。
- 授業中の教師や子どもの言動で評価できること
- 授業から学んだこと・取り入れてみたいこと
- 授業の課題や提案したいこと

ステップ（グループワークの時間）

- * 原則3人で、交流することと提案するために協働して考える。
- 1人が考えを述べる。他の2人は考えを聞き、意見をまとめる。（2回繰り返し）
- 全体に提案したいことを3人でまとめる。

ステップ（個人で考える時間）

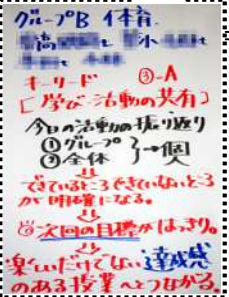
- * 授業改善のために取り組むことをキーワードで示すとともに、具体的な方策をまとめる。

ステップ（他のグループの提案・提言から学ぶ時間）

- * 教室の壁に貼られた各グループからの提案事項を見て、大切な事項や授業に生かせるものを2つ程度選択。
- * 選択した理由について意見交換。

ある中学校研究会でのグループ提案事項の例です。

小・中・高の先生が一緒に協議をしていますね。



C チェック ～点検しましょう！～

Pにおける目標・計画にそって、実践を進めることができているか、児童・生徒の学習の状況やアンケート等を利用し、丁寧に点検します。点検は、これから何を進めていくべきなのか、ということを把握するために行いましょう。

点検項目の例

目標と計画の進行状況の点検は、各校の状況に応じて項目を設定します。次に示すのは、例としてご参照ください。

- 学習指導要領の目標の実現状況を的確に把握していますか。
- 授業では、学習のねらいを明確に示し、学習の見通しを持たせていますか。
- 児童・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問を工夫していますか。
- 児童・生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか。
- 単元全体を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る時間と、それらの活用を図る時間とのバランスはとれていますか。

授業研究会では、感じたことを率直に意見交換できる雰囲気となっていますか。

授業研究会では、何を改善していくべきかの課題が明確となり、次の研究会につながっていますか。

A アクション ～修正しましょう！～

Cの点検の中で見えてきたこと、目標を実現するために必要なことは、おそれず、大胆に修正してみましょう。県教育委員会は、全ての学校を支援しています！